

「ティーチング・ポートフォリオ」の作成と授業時間外学習

保健体育・日野克博

1. 授業の概要

「総合型地域スポーツクラブ指導実習Ⅲ」は、スポーツ健康科学課程の3年生を対象に開講している。受講生は、愛媛大学総合型地域スポーツクラブで実施している各運動教室の企画・運営・指導に参画し、運動プログラムの作成や安全管理・応急処置に関する実践的知識、多世代の会員とのコミュニケーションスキル、運動・スポーツに関する実践的指導力などを身に付けている。さらに、それらの質的改善と自己の指導理念を明確化させるために、「学生版ティーチング・ポートフォリオ」(以下、TP)を作成している。「ティーチング・ポートフォリオ」とは、「自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた記録(教育業績)」(栗田, 2009)のことで、TPの作成を通じて、学生自身が自己の指導観や指導方針(ポリシー)を構築し、今後の自己教育課題を明確化させることを、本授業のねらいにしている。

2. 授業の展開と授業時間外学習

本授業は、1年間の総合型地域スポーツクラブの各教室での指導活動とそれらを振り返る省察授業で構成されている。各教室での活動、他教室の観察、TPの作成作業は、授業時間外学習(省察授業の準備や前提)として位置づけており、大学での省察授業では、TPの作成に関連したスタートアップシートの確認、中間報告、最終報告や他教室観察の意見交換等を行っている。さらに、本授業では、アクティブ・ラーニングを意識した授業展開や反転授業方式を導入して、学生自身の指導力の向上、指導理念の構築、各教室の運営等における課題の発見と解決にむけた主体的・協働的な学びを促進している。

3. 授業時間外学習の促進並びに授業の工夫

1) 各教室での指導活動

学生は、愛媛大学総合型地域スポーツクラブのいずれかの教室に所属し、各教室のリーダーとして活動し、指導に関する実践的指導力を身につけている。また、各教室の活動について、運営委員会で、教室の活動方針、成果と課題等を報告している。(各教室の打合せや準備、報告等は、授業時間外学習として実施)

2) 他教室の観察・報告

他教室の活動状況を、前期1教室、後期1教室、参観し、そこでの気づきや発見をレポートする。(授業時間外学習)

省察授業では、他教室を観察した内容をもとに、小グループを構成して、各教室の実施状況や工夫点、各教室の課題や改善方策などを相互に意見交換する場を設定している。

3) TPの作成

TPの作成にあたっては、省察授業前にTP作成の事前課題を提出する反転授業方式を導入した。例えば、授業時間外学習として、TPの全体構成や要点を計画したスタートアップシートを作成し、省察授業では、事前課題として提出された各自のスタートアップシートに基づいて、相互に発表や意見交換を行った。そこで意見を参考に、各自が再度TPの作成作業に取り組み、次回の授業にむけて改善を図るようにさせた。(TP作成は授業時間外学習)

一方、TP作成の主なねらいは、自己の指導観や指導理念(指導ポリシー)を構築することにある。そのため、省察授業では、「ワークシートを使って相互に指導観や指導理念を洗い出すワーク(なぜなぜワーク)」、「自己の指導観や指導理念について言葉で表現するショー

トプレゼンテーション」, 「TP チェックリストを用いた相互評価を通じて他者の考えから自己の TP を振り返る省察ディスカッション」などを実施した。



(ショートプレゼンテーションの様子)

4)自分の指導方針、指導哲学

自分が目指している指導者とは、どんな対象者であっても「やる気引き出す」ことのできる指導者だ。その指導者に近づくために三つの方針を立てた。

① 運動することは楽しいね!

一つ目は、運動することの楽しさを伝えることだ。運動をすると、体そのものが動くだけでなく、それに伴って心も動く。特に小学校低学年ぐらいの子どもたちは、活動で体を動かすことで、いろいろな発見をしながら感動し心を動かすことで経験を増やしていく。『体を動かすと心が動く』という感覚が一体となって、「運動することは楽しいね」「もっと運動したい」という運動有能感につながっていくのではないかと考える。逆に、運動することが楽しいと思えないと、やる気(意欲)は低いまま停滞してしまうはずだ。指導者として、どの発達段階の子どもたちや大人に対しても、まずは運動することの楽しさを伝えられるようにしたい。

② できるようになりたい! もう1回やりたい!

二つ目は、できないことが少しでもできるように最善の支援をすることだ。運動することに対して「自分は運動ができないからやりたくない」「練習してもできない」というような苦手意識を持っている人は多い。しかし、苦手なことを克服していくその過程が人を成長させると考えている。「できないことに少しでも挑戦しよう」、「できるようになりたい!」という姿勢が大切だ。そのような姿勢を育てるために、どうすればできるようになるのかを明確にアドバイスすることが求められる。一人一人受け取り方は違っていくので、それぞれに依るような具体的なアドバイスをするようにしたい。

③ 先生とだったらがんばれる!

三つ目は、指導する対象者と良い人間関係をつくることだ。一方的な指導だけではなく、指導の対象者からも「ここをどうしたらよいか分からない」などの言葉のキャッチボールをしながら一緒に考えて解決していくことが必要だと考えているからだ。良い人間関係を築くことで、信頼関係が生まれる。そして、自分を信頼してもらえれば、アドバイスが伝わりやすかったり、意欲が高まったりと良くなる要素が出てくる。「先生と一緒にやればできそう」「先生教えて!」と言ってもらえるような関係が理想的だと考える。そのために、活動時だけでなく、それ以外の時間にも積極的にコミュニケーションをとるようにしたい。以上のようにこの三つの指導方針をもとに、「やる気を引き出せる」指導者になりたい。

(TPの一部:自分の指導方針、指導哲学)

4. 学生の授業評価

この授業で取り組んだ TP 作成等について、全授業終了時に授業改善のためのアンケート(無記名式)を実施した。その結果は、表1のとおりである。どの項目でも学生からの高い評価を得ることができた。なお、授業時間外学習として位置づけた「他の教室の観察」が他と比べて評価を下げていた。観察して報告するだけでなく、観察したことを TP の内容に関連づけたり、観察の目的や意図を十分理解させて取り組ませることが課題とした確認できた。

表1. 授業改善アンケートの結果

設問	N=22,4 点満点
Q1. クラブや教室の目的や目標が明確になった	3.83
Q2. 自己の指導方針や指導理念が明確になった	3.74
Q3. 指導の工夫や改善につながった	3.57
Q4. 教室の成果や課題を知ることができた	3.70
Q5. 今後の自己教育課題をもつことができた	3.65
Q6. TP の作成は有益だった	3.70
Q7. 他の教室の観察は有益だった	3.35
Q8. 後輩(次年度も) TP 作成を行った方がいい	3.83

また、学生からは、授業時間外学習として実施した TP 作成は大変であったという意見もあったが、「これまでの指導を振り返り、自らの指導理念を整理する機会が持てた」など、肯定的な評価が多くみられた(表2)。TP 作成を通じて、自己の考えを整理したり、文章化することで、自己の指導観や指導理念を明確化させることにつながったと言える。

表2. TP 作成後の学生のコメント

- 書き出すことで、問題点や改善点が明確になった
- 自己の指導理念を明確にすることで、ブレなく指導することができ、「明確」にすることは大切だと感じた。
- TP を作成して、普段、深く考えずにいた部分についてしっかりと考え、教室の課題、個人の課題を明確にすることができた
- 文章にまとめることにより、今では紙をみないで自分の指導理念を述べられるようになったと思う
- 自分の指導方針について、今までは何となく指導を行ってきたが、TP 作成を通じて考えるよい機会になった
- 教室指導について、ただ淡々とこなすのではなく、しっかり理由や目的、目標をもって実施しなければいけないと再確認することができた
- 今後は、TP を自分の言葉でアピールできるようにしていきたい
- 残りの大学生活の中で、目標を達成できるよう、教室の理念と自分の指導理念をリンクさせながら、経験を積んでいきたい
- TP を作成することで、自分と向き合うことができ、自分を知る良い機会になった

5. 本授業の成果と今後の課題

本授業は、授業時間外学習が占める割合は少ない。しかし、それを前提に TP 作成が行われ、学生にとって確かな成果を実感できていることから、高い評価が得られた推察する。今後も、授業時間外学習をどう機能させ、学生の確かな学習成果を導くか、工夫改善を図っていきたい。